

2 新豚舎に移転した肥育豚農場のバイオセキュリティ強化

南丹家畜保健衛生所

5

○ 清水 茂長 寺石 武史

10

【はじめに】食品残渣飼料を活用した府内最大規模の肥育豚農場で、長年悪臭や水質汚濁、鳥害等の環境問題、豚丹毒の継続発生等の課題があった。抜本的な解決を図るため、南丹広域振興局と市の強い指導のもと『平成21年度京都府強い農業づくり対策事業(産地競争力の強化)』を活用し新豚舎に移転。食品残渣をスー

15 ープ状にして乳酸菌を加えパイプラインで給与する府内初の発酵リキッドフィーディングシステムを導入するとともに、排水を出さないオガコ床豚舎とし、住民と『環境保全協定』を締結する等環境に最大限配慮。

15

【事前の衛生指導】稼働前、移転後の衛生管理ポイントを提示し、畜主の衛生意識向上に努めた。素豚導入元の確認、導入時の消毒対応、農場出入口への看板設置、車両消毒や豚舎毎の踏み込み消毒槽の設置、衛生管理区域設定、来場者記録表の記載や京都府独自の『10

20 (テン) 検の日』を活用した衛生管理状況の自己点検を実施する等高レベルのバイオセキュリティを構築。

20

【稼働後の課題と対応】開場後、導入直後の死亡事故、システムの不具合、敷料の管理失宜、肺炎多発等の問題が発生。導入時の抗生物質投与、導入別抗体検査による疾病浸潤状況の確認、畜舎環境の把握のための臭気測定、敷料管理の変更を指導し、一定の成果を得た。

25

30 今後も引き続きバイオセキュリティ強化に取り組む。

30